

サイエンスキャンプ '96

次代を担う青少年を対象としたサイエンスキャンプは、平成7年度より科学技術庁の関係機関で実施され、今回が2回目。このサイエンスキャンプは、高校生が夏休みの期間中に2泊3日という短期間ではありますが、各機関で研究者と最先端の実験装置と一緒に実験をしたり、直接指導を受けられるという有意義な企画です。

防災科学技術研究所では、夏休みも終わりに近い、8月26日（月）から28日（水）の3日間キャンプを実施、岩手県、福島県、埼玉県、神奈川県、千葉県、東京都から11名の高校生が参加、熱心に実験や講義等で初体験の勉強を行いました。

最初は、筑波研究学園都市っていったいどのような都市なんだろう、また、防災科学技術研究所は何を研究しているところなんだろうとはっきり分からずに参加し、更に4時間以上も連続して講義・実験が続くのは、授業でも経験がないため不安一杯で参加した高校生が多かったが、しかし、キャンプが開始されると初めてこのキャンプで友だちになった参加者と一緒に施設見学や実験等で、お互いに助け合っていく内、不安もあつと言うまに解消していきました。

キャンプの最終日には、当初の終了時刻の計画を変更せねばならないほど研究者に質問したり、また、研究者が回答に窮する場面もあったり、参加者は3日間が短いなどと初日と最終日での気持ちの違いがはっきり、また研究者からは時間が足りなかった等と意見が出された有意義な3日間でありました。

今回、参加された高校生がこの経験を生かして有意義な学生生活をされることを期待しています。

当研究所でのサイエンスキャンプ日程と、参加した高校生の感想文を紹介します。

1. スケジュール

8月26日（月）

13:00～13:30 開講式

挨拶：森 管理部長

自己紹介：関係者全員

13:30～14:00 防災科学技術研究所の概要

指導：竹田 厚先生 第2地震調査研究棟1F
（セミナー室）

14:15～17:00 研究所の施設見学

案内：三口 順子

リモートセンシング情報処理室 システム室
スーパーコンピュータ棟 大型耐震実験施設
大型降雨実験施設 地表面乱流実験棟

8月27日（火）

9:30～11:40 地震の観測

指導：木下 繁夫先生（地震調査研究棟2F
「第2輪講室」）

11:40～13:00 昼食

13:00～17:00 雨の地中への浸透と土砂災害の発生

指導：富永 雅樹先生（降雨基礎実験棟）

17:00～19:00 懇親会

8月28日（水）

9:30～11:40 蒸発の実験〔地表面の乾燥化による変化（part1）〕

指導：岸井 徳雄先生、中根 和郎先生、千葉長先生（地表面乱流実験施設）

11:40～13:00 昼食

13:00～14:00 蒸発の実験〔地表面の乾燥化による変化（part1）〕

14:00～15:00 キャンプのまとめ 研究本館
（第2会議室）
閉講式

2. 感想文

宇都宮 妙

研究所なのに、アットホームなのが意外でした。一番おもしろかったのは、地震計をさわってみたのと、バケツに砂を入れて、水をしみこませて電圧をはかる実験でした。このとき、研究者としての使命というものも知ることができたのでよかったです。

休み時間にインターネットも見せてもらったりしてとても楽しかったです。

筑波大のお兄さんが、大学の生活など教えてくれたりして、よかったです。

3日間大変お世話になりました。ありがとうございました。

川又 総子

- ・講義の時間が長そうだったけれど、実際はけっこう短く感じた。
- ・木が多くて、筑波山が見えて広くてとても環境が良かった。
- ・最初は質問しづらかったけれど、次第に質問もできたし、先生方やその他の方々がみんな親切だった。

久我 まり

最初、来る途中では“どの様な事をするのか”，“どんな人がいるのだろうか”などとても心配して来ましたが、こちらへ来てからは、とても楽しく過ごすことができました。スケジュールを見たときは、1つの実習の時間が長く、ちゃんと集中してできるか心配でしたが、どの実験も楽しく、終わりの時間がきてしまうと“もっとやりたいなあ”という気持ちになりました。今は、今年の夏、ここへ来て良かったと思っています。来年は受験でこのようなプログラムに参加できるかわかりませんが、できたらまた参加したいと思います。最後になりましたが、私がこのような気持ちになれたのも、諸先生方のおかげです。本当にありがとうございました。

神部 透

時間は足りなくて少々あわただしかったです。が、研究の本質のようなものがよくわかりました。今回の体験は貴重なものになりそうです。全体にレベルが高くて、わからないお話も多かったですけども…。

本当にここへ来てよかったと今では思います。どうもありがとうございました。

関根 亮

今回、防災に関する実験講義をして頂き、ありがとうございました。地中への水の浸透では、富永先生の実験に対する情熱を感じ、僕も、実験を楽しくする事ができました。僕の趣味は、アイデア商品を作る事ですが、その発想は、今まで体験してきた実験などによって突然うかびます。地震計は、どのようなしくみになっているのか。などの疑問が生まれてきます。今後も、「なぜ？」という気持ちを大切にしていこうと思います。懇親会では実験意外の、大学受験のアドバイス、今後の進路に多いに役立ちました。厚く御礼申し上げます。

寺岡美由紀

このキャンプに参加する前日、しおりを読んでいて、「ただ、研究者の実験を見学するぐらいかな。」と思っていたのですが、実際に参加してみると、自分自身で最初から最後まで実験をするという方法でした。とても充実感があり、楽しくできて、「来て良かった。」と思える3日間でした。研究者のみなさん、ありがとうございました。

内藤 義人

研究者の人達が分かりやすく説明してくれて助かりました。懇親会でもいろいろな話していたのを聞けてためになりました。アルバイトの人の話も良かったです。

ホテルと道路の距離が近くて眠れなくて、次の日が少ししづらかった。

平野 あや

研究所内は予想以上に緑が多くて広がった。

防災科学技術研究所では防災のためにすごく細かい所まで研究していると思った。

例えば土砂の実験の所で「前に雨が降った水が残っていると次に雨が降ったら…」という話で、土と空気と水の位置関係などは本当に細かい(?)と思ったし、ためになった。

松尾めぐみ

防災研ときいて、どんなところかいまいちイメージがつかめていなかったの、実際に来てみてとてもおどろきました。(つくばという街がはじめてでもあった)最初はついていけるかという心配もあったのですが、実際に実験したりする事を、どのテーマにおいてもやらせていただき、すこし研究者の方々の一員になった様な気分、とてもおもしろかったです。又、講師の方々もとても丁寧にわかりやすく教えて下さったと思います。地震計をいじるのも初めての体験でしたし、コンピューターで測定するのも、初めてでいろいろと興味深く、土砂の湿度の実験もよくこんな事が私たちにできるとびっくりしました。

本当に2泊3日が短く残念です。有難うございました。

宮本 香織

あまり防災って感じではなくって、科学的でおもしろかった。

今まで以上に地球の自然に興味を持つようになった。研究者の方々は、もっと固いのかと思っていたのですが、とまって話しやすく、しゃべれてうれしかったです。コンピューターと英語をできるようになろうと思いました。

またサイエンスキャンプに参加して、研究の最前線を見てみたい。ありがとうございました。

村上 厚二

この研究所にすることができてよかったと思っています。自分たちが普段生活している身近にも防災の技術があることを知りました。実験や研究者の方々のお話も大変興味深いものばかりで、夢中になってお話を聞きました。ここで研究者の方々に出会えたことをうれしくおもいます。

ありがとうございました。



関東・東海地域における9月の地震活動

震源決定したマグニチュード (M) 4 以上の地震は4個であった。

月日	時分	深さ (km)	M	震中地名
9/ 3	21:47	100	4.2	房総半島南方沖
9/ 5	02:11	42	4.3	相模灘
9/11	11:37	56	6.7	銚子市付近
9/22	11:29	39	5.1	房総半島南方沖

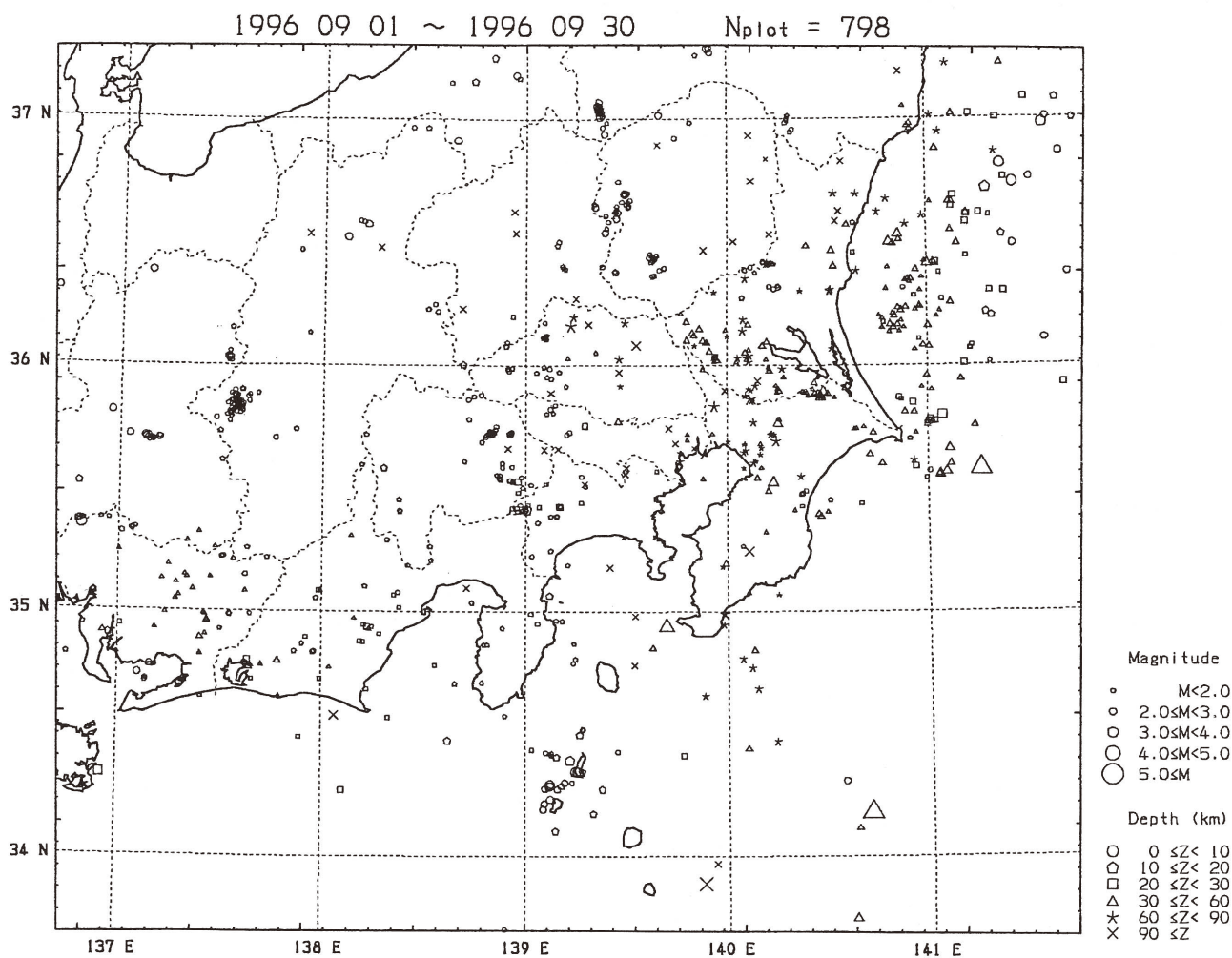
長野県西部の地震活動は静穏で、微小地震が41個観測され、最大地震は21日10時31分、M2.4、深さ7.6kmであった。

飛騨地方で、7日22時21分から8日13時44分の間に微小地震が続いて7回観測され、最大地震は7日22時21分、M2.6、深さ6.2kmであった。

銚子付近で11日11時37分、M6.7、深さ55kmの有感地震が観測され、この付近で10日14時39分から13日18時54分の間に14個の微小地震が観測され、最大地震は、11日14時21分、M3.7、深さ9kmであった。1979年観測開始より、同地域でM5以上の地震が観測されたのは、1988年9月26日、M5.8、深さ8kmの地震以来である。

千葉県北部で30日04時45分、M3.6、深さ31kmの地震が観測され、30日04時47分から12時08分の間に12個の微小地震が観測された。

新島・神津島付近で、1日から30日までの間に小規模な群発地震活動が発生し、25個の小・微小地震が観測され、最大地震は、3日01時05分、M3.3、深さ8.5kmであった。



平成 8 年度 JICA 集団研修開始

国際協力事業団からの委託を受け、当研究所が毎年実施している集団研修「防災科学技術」コースの開講式が9月9日に行われ、これから3ヶ月間にわたる研修がスタートしました。本研修は自然災害による被害の軽減及び防止のための防災技術を習得することを目標としています。

今年度で20回目を迎えるこのコースの今年の参加者は以下のとおりです。

なお、本集団研修「防災科学技術コース」は20回目の今年をもって終了となります。



平成 8 年度「防災科学技術コース」研修員

1. Mr. Md. Neazul Haque
(災害対策・救援省, バングラデシュ)
2. Mr. Agostinho Tadashi Ogura
(サンパウロ州技術研究所, ブラジル)
3. Mr. Naba Kumar Gogoi
(国立地球物理学研究所, インド)
4. Mr. Januar Panggabean)
(鉱山エネルギー省 鉱山総局 環境地質局
地滑り部, インドネシア)
5. Mr. Sitha Phouyavong
(科学技術環境機構 企画部, ラオス)
6. Mr. Leonardo Gonzalez Neri
(イダルゴ州政府 市民防衛機構, メキシコ)
7. Mr. El Fellah Bouchta
(モハメッド五世大学 科学研究所, モロッコ)
8. Mr. Joe Buleka
(鉱山石油省 パプア・ニューギニア地質調査
所, パプア・ニューギニア)
9. Mr. Khalid Mohamed Amin Arkanji
(気象・環境保護局, サウジアラビア)

人事異動

9月1日付け

植原 茂次 辞 職 所長

片山 恒雄 昇 任 所長

白武耕一郎 併 任 管理部会計課専門職

国際交流

【派遣】

- ・ 9.8～9.15 中村秀臣〔長岡雪氷防災実験研究所〕
(8日間) 氷庄コアの解析に関する情報交換及び
北極センター代表者会議出席 (米国)
- ・ 9.8～9.15 佐藤篤司〔新庄雪氷防災研究支所〕
(8日間) アラスカ大学におけるエアロゾル研
究解析結果の比較検討及び今後の極
域研究に関する意見交換 (米国)
- ・ 9.9～9.16 飯尾能久〔地圏球科学技術研究部〕
(8日間) ヨーロッパ地震学連合大会において
招待講演 (アイスランド)
- ・ 9.14～9.20 大谷圭一〔防災総合研究部〕日米地
(7日間) 震シンポジウム参加 (米国)
- ・ 9.15～9.20 片山恒雄〔所長〕日米地震シンポジ
(6日間) ウム参加 (米国)
- ・ 9.18～9.22 石田瑞穂〔地圏球科学技術研究部〕
(8日間) リアルタイム地震研究についての情
報収集及び意見交換 (米国)
- ・ 9.27～10.7 岸井徳雄〔気圏・水圏地球科学技術
(13日間) 研究部〕共同研究(陸域, 大気間の
相互作用に関する研究) 打ち合わせ
及び試験地現地調査
(オーストラリア)

主な来訪者

- 8月27日 千代田町青少年消防クラブ員 (40名)
- 8月27日 福岡県立修館高等学校 (25名)
- 8月28日 埼玉県立越谷北高等学校 (46名)
- 9月5日 大蔵省関東財務局国有財産監査官 (4名)
- 9月18日 土浦第一中学校成人教育委員会 (50名)
- 9月25日 結城市議会 (4名)
- 9月27日 (財)豊川市国際交流協会 (13名)

編集・発行

防 災 科 学 技 術 研 究 所

〒305 茨城県つくば市天王台3-1

TEL (0298) 51-1611 (代)

FAX (0298) 51-1622

(再生紙使用)